観光は平和へのパスポート
国連世界観光年宣言

JHSたより

平成25年7月12日(20,000部)発行
2013.7 Vol.48

学校法人日本ホテル学院
発行所／専門学校日本ホテルスクール
一般財団法人 日本ホテル教育センター
〒164-0003東京都中野区東中野3丁目15番14号 TEL.03-3360-8231(代)
http://www.jhs.ac.jp http://www.jec-jp.org/ FAX.03-3360-8584

海外からの留学生卒業累計23カ国326名

～文科省委託の国費留学生は20カ国65名～
現在5カ国24名が在学中、今後は本校からアジアへの留学も

当校で学ぶ留学生(7月1日現在の留学生は24名)

本校では、1975年外国人留学生4名の卒業以来、2013年3月までの38年間で23カ国326名の卒業生を輩出してきました。

国籍及び人数は、①韓国119名、②台湾48名、③中国24名、④マレーシア20名、⑤中国：香港19名、⑥インドネシア13名、⑦タイ7名、⑧シンガポール5名、⑨インド4名、⑩ラオス4名、⑪カンボジア3名、⑫アメリカ3名、⑬ベトナム2名、⑭中国：マカオ2名、⑮モンゴル2名、⑯ミクロネシア2名、⑰西サモア2名、以下6カ国各1名：アルゼンチン、パプアニューギニア、パラオ、フィジー、フィリピン、ブルネイの順となっています。その内、文科省委託の国費留学生は、20カ国65名。

現在、5カ国24名：韓国5名、中国13名、台湾4名、インドネシア1名、スウェーデン1名が在学中で、今後も、年間20名を目処に外国人留学生を受け入れていく方針です。

文科省は、1983年留学生10万人計画を発表、2003年に目標達成、その後、2008年「グローバル戦略の一環」として、当時約14万人であった留学生を、2020年を目処に30万人を受け入れる計画を新たに策定、現在その途上にあります。出身地域では、中国（8.8万人）、韓国（1.8万人）及び台湾（0.5万人）からの留学生が全体の約80%。一方、日本人の海外留学生は、2004年約8.3万人をピークに現在では約5.8万人に減少、留学先は、米国（2.1万人）、中国（1.7万人）及び英国（0.4万人）が約70%を占めています。

UPH大学へ短期留学した当校学生とクラスメート

最近では、日本人の海外留学先も多様化し、グローバルな双方向の傾向が出始め、特に語学留学では、英語と中国語を同時に学べること、更に学費・生活費が安価であることから、中国、フィリピン、シンガポールなどアジアへの留学が増加傾向にあります。

今後、本校では、欧米に加え、アジアとの交流も促進、特に、経済性も配慮し、英語教育とホスピタリティ教育の整ってきたフィリピンUPH大学との交流促進も図って行きます。

教材もグローバル化に向けて
－日英対訳の教材を開発－

校長 石塚 勉

2006年英語専攻科を設置してから7年、授業の50%を英語による授業を開始、現在では85%を英語で授業ができる状態になってきました。138名が同学科を卒業。

これに並行して、専門科目教材も日英対訳本を開発、①宿泊業務の基礎、②レストラン業務の基礎、③飲料メニューの基礎、④料理メニューの基礎の4冊、今年度から使用を開始しました。次年度使用に向けて、①宴会業務の基礎、②フロントオフィス・システム&オペレーション、③ホテルマネジメント、④ホテルマーケティング、⑤レストランマネジメント総論の5冊を新たに開発中です。

英語専攻科と本科は、基本的に同一カリキュラム、授業が英語か日本語かの違いだけのため、本校の英語専攻科に限らず、対訳教材は、該当教科の受講生全員に使用していく方針です。

ホテル専門の教材は、外国で沢山出版されていますが、本校の教育計画に合致していなければ、英語専攻科と他学科の教育内容に差の生じる恐れがあり、必ずしも英語であるからと言って採用できるものではありません。その差を防ぐため、日英対訳の教材を独自に開発したものです。これらを活用して、多くの学生に、内容と同時に、語学の学習にも役立てて欲しいと期待しています。

日英対訳テキスト

留学生 13 名の学校生活がスタート
～オリエンテーションを実施～

2013 年度　留学生の皆さん

今年度は中国から 9 名、台湾から 3 名、韓国から 1 名の合計 13 名が入学しました。2 年生の外国人留学生との交流もあり、新入生はこれからの学校生活について熱心に先輩に聴いていました。

当校では、留学生と日本人の学生が一緒のクラスで授業を受けるため、日本語も上達し日本人の友達をつくることができます。また、学校では外国人留学生の皆さんをサポートする体制が整っています。

2013 年度　入学式典を挙行
～464 名が入学～

2013 年度の入学式を 4 月 4 日、なかの ZERO 大ホールで挙行しました。

観光関係団体、企業、教育関係者等、多くの来賓や保護者の皆様が見守る中、464 名の新入生はそれぞれの夢実現に向けて第一歩を踏みだしました。

式典は石塚勉校長の式辞から始まり、藤田観光株式会社 顧問 森本昌憲様から祝辞を頂きました。

入学の言葉
新入生代表　中村 真綺さん

1 年生担任紹介

2013 年度　1 年生担任			
A	祖父江　千春	G	神保　江津子
B	安本　ますみ	H	井上　正子
C	武内　悟	I	中島　宣由紀
D	山本　浩子	J	斎藤　彰
E	小島　和子	K	川辺　修
F	中山　万作	L	江口　幸

2013 年度留学生　68 名が出発
～オーストラリア・メルボルンへ 34 名、カナダ・バンクーバーへ 34 名～

期待を胸にカナダへ出発

本校の海外留学制度を利用してオーストラリア・メルボルン（ホームスグレン・インスティチュート）へ留学する 34 名、カナダ・バンクーバー（ダグラス・カレッジ）に留学する 34 名が 4 月 11 日、4 月 13 日にそれぞれ成田空港を出発しました。

家族や友人そして担任の先生が、これから 10 か月間の留学生活を始める学生の応援と激励のため、成田空港に駆けつけました。

異国の地で生活を送る学生、家族の皆さんも初めての留学生活に不安はあるものの、これから始まる新しい生活に期待を寄せている様子でした

オーストラリア留学の学生

ご両親の見送りを受けて

カナダ・バンクーバーで修了式
～ダグラス・カレッジ留学の49名～

昨年、カナダ・バンクーバーに留学した 49 名は、10 カ月の留学プログラムを修了し、1 月 31 日に留学先のダグラスカレッジキャンパス内での修了式に臨みました。

副学長 Dr. Guangwei Ouyang 氏より学生それぞれに修了証書が授与され、学生はカナダで過ごした 10 カ月間を懐かしく振り返っていました。

学生の留学達成度はさまざまで、英語力向上に力を入れた学生、カナディアンライフを楽しんだ学生、国際色豊かな友達作りに力を入れた学生、ホスピタリティプログラムに一生懸命取り組んだ学生や企業体験から海外で働く意義を見出した学生など、それぞれ価値のある経験をしたようでした。

世界 40 カ国から留学生受け入れ
国際人教育で高い実績を持つ、ダグラス・カレッジ

二つの JHS 学生会館

学生会館　浦安外観

日本ホテルスクール直営の女子専用学生寮「JHS 学生会館浦安」及び「JHS 学生会館妙典」はホテルスクールまで乗り換えなし、共に 45 分で通学可能。

部屋は約 21 ㎡、バス・トイレ別。テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、エアコン、ベッド、机、イス、カーテン、洗濯機を完備。乾燥機付きのバスは快適。鍵はオートロック式なので、防犯にもしっかり対応。コミュニティスペースもあり、友達と授業の予習・復習もできます。

また、管理人も常駐しているので、安心できる環境が整っています。

「JHS 学生会館」新入寮生の歓迎会を実施
～JHS 学生会館浦安・JHS 学生会館妙典　新入寮生が参加～

本校が直営する「JHS 学生会館浦安」「JHS 学生会館妙典」において、この春入寮した 1 年生対象の「入寮歓迎会」を館内ホールで開催しました。歓迎会では館長さんを中心に 2 年生も準備、手伝いに協力し、同じ学生会館で生活する学生同士の親睦を深める行事となりました。

学生会館　妙典外観

新入生歓迎会の様子　学生会館　妙典

JHS 学生会館に入館されている皆さんが東京での生活を通じ、勉学や研修に励むことのできる環境を整え、共同生活を送る中で充実した学校生活を送れるよう、学校も全力でサポートしています。

1年生恒例行事 「ステイマナー宿泊研修」「ボウリング大会」を実施
～宿泊研修で本物のサービスを体験～

ステイマナー宿泊研修
～宿泊研修で本物のサービスを体験～

1年生恒例の学校行事“ステイマナー”が、昼間部が6月4日から6月6日の日程で横浜ベイホテル東急、夜間部が6月6日から山梨県のホテルマウント富士、ハイランドリゾートホテル＆スパにて行われました。

イギリス式サービスの様子

昼間部模擬挙式の様子

この宿泊研修は学生がお客様の立場でホテルに宿泊し、併せてサービスするスタッフの立場を体験し、仕事への理解を深める目的で実施しています。

プロのサービスを受けながら食事やパーティーを体験し、現場のホテルスタッフ指導のもと、ベッドメイキングやテーブルセッティングなどの基礎技術を学びます。ホテルスタッフとゲストの両面を体験することで、ホテルの現場の理解をより深めることができます。

学生達は自分たちの未熟さを感じながらも、研修を通して、今後の目標を再確認していたようです。

ボウリング大会
～クラスの親睦を深める～

1年生対象のボウリング大会を5月2日、品川プリンスホテルで開催しました。この学校行事・ボウリング大会は、入学したばかりの時期に行い、クラスの親睦を深め学校生活がより有意義に送れることを主な目的として開催しています。

午前の部優勝
©クラスリーダーと石塚校長

午前、午後に別れ昼間部、夜間部合同で行い個人賞、クラス賞を目指してボウリングを楽しみました。また石塚校長先生や各担任も学生とボウリングを一緒に行い、クラスメイトや先生方ともコミュニケーションが取れ満足感に溢れている様子でした。

「リンゴのカービング」では、会場からどよめきが上がる上々の出来栄えでした。

第7回 HRS サービスコンクール 2013 在校生が金賞を受賞
～夜間部ブライダル科2年生の山本舞さん～

2月19日、東京ビッグサイトにて開催された、第7回HRSサービスコンクールでカレッジ部門に出場した夜間部ブライダル科2年生の山本舞さんが見事優勝の快挙、金賞を受賞しました。

多数の応募の中から第1次審査を通過した18名で、課題の「オードブル風サラダ」の作成と「虹鱒のムニエルのデクパージュ」に挑戦。落ち着いて、課題を丁寧かつ手際よく実演した山本さんの作品は素晴らしいものでした。

左から川上副校長、山本さん、島田先生

ハイアット リージェンシー 東京で「ブライダルゼミ発表会」を開催
～USTREAMで生中継～

音響照明も学生が操作

ブライダル科2年生によるブライダルゼミ発表会を2月21日にハイアット リージェンシー 東京で開催しました。

この発表会は、2年間の学びを基に企画したオリジナルのウエディングプランを発表するものです。当日は、現役のブライダルコーディネーターやブライダル業界関係者など90名の方が出席、本年度は「ゆとり世代がやってきた」をテーマに、校内選考で勝ち残った6チームが若い感性と自由な発想でオリジナルウエディングプランを企画・制作し発表を行いました。

公益社団法人日本ブライダル文化振興協会　野田兼義専務理事からは「今年も発表の内容が素晴らしかった。いろいろな発想がある中で、テーマに対して、『どんなとき』『いつ』『何名』などの前置きを付け加えることで、さらに良くなると思います。ブライダルゼミ発表会は私たちに刺激を与えてくれる良い機会になっています」と総評をいただきました。

また、当日の様子はインターネット上でライブ映像を配信するサービスのUSTREAM（ユーストリーム）でライブ中継を行い、発表会に参加できなくてもリアルタイムでプレゼンテーションを視聴することができました。より効果的なサービスを提供するため、今後もSNSを活用したサービスを積極的に展開していく予定です。

業界関係の皆さまにご参加いただきました

アシスタント・ブライダル・コーディネーター検定
～合格率95.8%～

内田桜香さんと
担任の齊藤先生

公益社団法人日本ブライダル文化振興協会が実施する「アシスタント・ブライダル・コーディネーター（ABC）検定試験」を2年生143名が受験、137名が見事合格、合格率は95.8%（全国合格率87.3%）となりました。なかでも、夜間部に在籍する内田桜香さん、伊藤橘子さん、中村彩乃さんは校内1位の95点を取得しました。

フォーマルスペシャリスト ブロンズライセンス認定試験
～合格率95.2%～

日本フォーマル協会主催の「フォーマルスペシャリスト ブロンズライセンス認定試験」を84名が受験、80名が合格。合格率95.2%（全国合格率 90.8%）と好成績をおさめました。

認定試験に合格した学生たち
認定書を手に

第42回スコールアジア大会、スリランカで開催
～ 20カ国100名の会員が参加 ～

ガラディナ会場
左からロバート・ソン評議員(韓国)、
シェラルド・ベル前会長(グアム)、石塚勉校長

第 42 回スコールアジア大会が、スコールインターナショナルのモック・シン会長のご臨席の下、スリランカのネコンボ市、ジェットウイング・ブルーにて 5 月 30 日～6 月 2 日に開催され、20 カ国 100 名の会員が参加しました。

これまでスリランカでは、1986 年第 15 回アジア大会、1994 年第 23 回アジア大会、1990 年第 51 回世界大会が開催されており、今回が 4 度目のホスト国となります。スコールクラブは、スペインに本部を置き、現在 85 カ国 450 クラブ 18000 人の会員を有する観光業界人の国際民間組織です。日本では、東京、名古屋、大阪の 3 クラブ、約 100 人の会員がいます。「健康」、「幸福」、「友情」、「長寿」を標語に掲げ、世界的なネットワーク作りを中心に活動を展開しています。

今大会では、主催国のスリランカの芸能、文化、料理などを紹介、首都コロンボ市及びネコンボ市内を視察、B2Bセッション、ガラディナ、役員会、総会等が開催されました。

本校からは、石塚勉理事長／校長が出席しています。

アジア地区会長主宰の各クラブ代表ミーティング

The Ritz-Carlton プログラム」がスタート
～ 英語専攻科対象 ～

本年度より、英語専攻科を対象とした「The Ritz-Carlton プログラム」がスタートしました。

このプログラムは、ザ・リッツ・カールトン東京で勤務されている各部署のディレクターやマネージャーの方々に講義を行っていただくプログラムとなっています。1 年次には、講義だけに留まらず、ホテル見学や料飲の知識などをも同様に学びます。

副総支配人Kris Kaminsky氏による第1回 特別講義

質問をするKaminsky氏

5 月 14 日、第 1 回目の特別講義として副総支配人 Kris Kaminsky 氏が来校し、リッツ・カールトンの哲学やリッツ・カールトンに存在するクレドの意味など分かりやすく講義を行っていただきました。

また、リッツ・カールトンで働くホテリエが大切にしているモットーやお客様にサービスをする上で必要な genuine care など、Kaminsky 氏の経験談や様々な例を挙げながら説明していただきました。

副総支配人からの講義は学生にとって大きな刺激となり、学生達はリッツ・カールトンのサービスに興味を持ち、サービスとは何かと考えさせるような講義となったようです。

中央 Kaminsky 氏と料飲ゲストリレーション マネージャー
石野佳久氏（1994 年卒業）を囲んで

世界各国からの訪問者　深まる国際交流

スイス
～ エデュケーション･グループ ～

スイスのホテル学校を複数経営するスイス･エデュケーション･グループ（SEG）の CEO であるフロレント･ロンデッツ氏を始め、シンガポールのリージョナルオフィスのギー・ピータース氏、クオック･フォーン氏の３名が、4 月 9 日に本校を表敬訪問しました。

SEG は、スイス国内で独立経営されていた歴史のあるホテルおよび調理学校の５校を傘下に置き、学生総数 4,500 名の規模を誇る企業です。

今回の訪問は、傘下にある４つのホテル学校の日本人卒業生との初めての合同同窓会を開催するために来日し、日本のホテル学校の実情と施設見学を兼ねて本校に来校されました。

左から武内副校長、フォーン氏、ピータース氏、
ロンデッツ CEO、江口先生、石塚校長

フランス
～ ヴォークリューズ商工会議所 ～

石塚校長との意見交換の様子

フランス、ヴォークリューズ商工会議所国際部長 Benoit Daudet 氏が３月 13 日に来校し、ヴォークリューズ地区にある CCI Vaucluse 学校の教育機関について意見交換を行いました。

ヴォークリューズ商工会議所には３つの使命があり、（1）ヴォークリューズ地区にある企業を支援すること、（2）港の管理、（3）地元企業のニーズに合わせての教育環境の提供、の３点を中心に活動を行っているそうです。

CCI Vaucluse 学校は、社会人経験者や高校卒業後の学生 1,100 名が在籍しており、４～５年間学んでいます。観光産業が盛んな地区のためホテル、レストラン、ツーリズム教育には非常に力を入れているとの事です。

中国
～ BMIHMS中国校校長 ～

聖トマス大学（兵庫県尼崎市）は、2013 年４月からオーストラリアで評価の高いホテルマネジメント学校であるブルーマウンテン･インターナショナルホテルマネジメントスクール（BMIHMS）と提携し、英語でホテルマネジメントを教えるプログラムを設置しました。そのプロモーションと本校への表敬訪問のため、中国の２つのキャンパスを統括するディレクターである Geoff Turner 氏が、株式会社宿屋塾代表の近藤寛和氏と共に２月 14 日に来校されました。石塚校長と本校との今後の協力関係を確認し、施設ならびに授業見学を行いました。

左から武内副校長、藤原氏、
ジェフターナー氏、近藤氏、石塚校長

～ＪＨＳ同窓会便り～

卒業生が2位入賞、“The Master of Bridal Coordinator”の称号を授与される
～第９回 ”The Master of Bridal Coordinator” コンテスト～

石塚校長、冨士友里絵さん、郡司希さん、山本先生

公益社団法人日本ブライダル文化振興協会主催の「第 9 回“The Master of Bridal Coordinator”コンテスト」に「ホテル日航東京」でウエディングプランナーとして活躍している、冨士友里絵さん（2009 年卒業）が見事 2 位に入賞し、“The Master of Bridal Coordinator”の称号が授与されました。また、川越東武ホテル勤務の郡司希さん（2009 年卒業）も本大会に出場し、見事上位 10 名のファイナリストになりました。

この大会は、公益社団法人日本ブライダル文化振興協会が、知識、経験、品格を兼ね備えたブライダルコーディネーターを選出するものです。年 1 回開催し、この「The Master of Bridal Coordinator」の称号を誇りに、結婚式実施率の向上を図り、ブライダル業界の発展・向上に貢献する社会的イベントと実施されています。2010 年には当校の山本浩子先生が難関の最終試験を見事クリア、優勝を果たしています。

第39回　JHS同窓大学開催
～九州　長崎県ハウステンボス町にて～

第 39 回 JHS 同窓大学・九州を 3 月 16 日、ホテル日航ハウステンボスで開催、九州で活躍中の卒業生および同窓会関係者など 12 名が参加しました。

同窓大学・九州の学長、金森啓示氏（1978 年卒業・同窓会九州支部長）の挨拶に続き、参加者全員による自己紹介および近況報告を行いました。その後、勉強会教授の江川一喜氏（1976 年卒・ホテル日航ハウステンボス副総支配人）より旧オランダ村開園当時のお話やハウステンボスに関する講演、石塚校長より学校の近況報告、最後に夕食会で懇親を深め、卒業生同士の絆を改めて感じる一日となりました。

翌日はハウステンボスを視察後、野口裕子さん（1997 年卒業）が総支配人 室長 兼 広報企画支配人として勤務する、雲仙観光ホテルを訪問。野口さんの案内で館内を見学後、夕食を共にして交流を深めました。

ホテル日航ハウステンボス前にて

■同窓会に関するお問い合わせ
同窓会事務局:TEL:03-3360-8231　FAX:03-3360-8584

第15回JHSソムリエクラブの会合を開催
～東京ステーションホテルにて～

第 15 回 JHS ソムリエクラブの会合を昨年 10 月 3 日に全面改装してオープンした東京ステーションホテルの宴会場「陽光」で行い、22 名が参加しました。当日は料飲支配人の山岡広記氏（1994 年卒業）のホテル紹介の後に、鈴木利幸シェフソムリエから 4 種類のブラインドでスタートしました。

参加者の皆様とJHS関係者
写真中央：石塚校長

東京ステーションホテルは東京の玄関口に位置し、親会社が東日本旅客鉄道株式会社であることから、主に東日本の良いワインや酒を多くそろえており、現在 30 種類の国産ワインがリストアップされています。日常外国産のワインに接する機会が多いソムリエも国産の出来栄えに納得されていました。

JHSソムリエクラブは、ソムリエ及び料飲に携わる卒業生の勉強の場として年 2 回の会合をこれからも継続してまいります。興味・関心のある卒業生の皆さんからのご連絡をお待ちしております。

■ソムリエクラブに関するお問い合わせ
担当:川上　TEL:03-3360-8231　kawakami@jhs.ac.jp

海外で活躍する卒業生

イタリア・　メラーノ　－ Restaurant Kallmünz

山下将士さんと水澤先生

イタリアのレストラン・カルミュンツでソムリエ兼メートル・ド・テル（給仕長）として活躍中の山下将士さん（1999 年卒業）が、一時帰国に合わせ訪問してくれました。

山下さんは当校卒業後、1 年間のスイスホテル研修生を経て、2000 年からイタリアのレストランで働き、今年で 13 年目を迎えます。イタリアではブレシア、ミラノそして友人がメラーノでレストランをオープンさせる事になり、山下さんもメラーノへと移り住む事となったそうです。「仕事を変えるとき、その背景にあったのは『義理と人情』でした。」と人との繋がりの大切さを語ってくれました。

山下さんに将来の目標を伺ったところ、自分が社会の中でどうあるべきか、自分を育ててくれた地域や学校、全ての人々に恩返しをしたいとの事。具体的には、現地にいらした日本の方への観光のお手伝いや、将来サービス業を目指す若者への教育アドバイザーなど、夢は限りなく広がっているそうです。

アメリカ・グアム　－ Sheraton Laguna Guam

シェラトン・ラグーナ・グアム・リゾートのフロントオフィスマネージャーとして活躍中の菊島宏介さん（1999 年卒業 ）が来校しました。

菊島さんは卒業後、外資系ホテルや会員制レストランなどで仕事を続けてきましが、海外で自分を試してみたいと思い、24 歳でサイパンのホテルに就職し、現在のシェラトン・ラグーナ・グアム・リゾートの新規開業に合わせてグアムに活躍の場を移して今日に至っています。

同ホテルは、アメリカホテル研修生制度の研修派遣先ホテルの一つでもあり、5 月から研修予定の 8 名に対する事前レクチャーを行って頂きました。

当日は、ホテルに関する詳細な説明の他、グアムでの生活に関する具体的なアドバイスもあり、研修生にとって意義のある時間となったようです。

レクチャーを行う菊島宏介さん

財団ニュース

「一般財団法人」への移行のお知らせ

日本ホテル教育センターでは、公益法人制度改革に対応し、財団法人から一般財団法人への移行へ向け法令に従い所要の手続き進めてまいりましたが、平成 25 年 4 月 1 日付けで「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づく一般財団法人日本ホテル教育センターの設立登記を行いました。職員一同、今後も当センターの設立以来の意志を引き継ぎ、事業の遂行に邁進いたす所存でございますので、引き続き格別のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

賞金総額 100 万円「第 2 回学生観光論文コンテスト表彰式」を実施
～ 最優秀賞（観光庁長官賞）は学習院大学法学部政治学科 3 年 岡本成敦さん、長谷川裕さん ～

一般財団法人日本ホテル教育センターは、公益財団法人日本ナショナルトラストと共催で昨年末実施しました、「第 2 回学生観光論文コンテスト」の表彰式を観光庁より井手憲文長官の代理として志村格次長をプレゼンターにお迎えして開催しました。

このコンテストの趣旨は、大学生、短大生、専門学校生に、観光立国の実現をサポートするため、観光事業に対する興味関心を高め、大局から業界を見つめる視点を養っていただくこと。

受賞者と関係者の皆様

“ 観光立国で日本を元気にする方策について、私の提案 ”“ 観光資源保護におけるナショナルトラスト活動の役割について私の提案 ” 及び “ 新しい東北観光の在り方とその波及効果について、私の提案 ” の 3 つのテーマで論文を募り、61 編の応募の中から外部審査員により、最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編、合計 3 編の受賞が決定しました。

観光庁 次長 志村格氏と
岡本 成敦さん・長谷川 裕さん

第 3 回「学生観光論文コンテスト」論文募集！

応募資格は観光系に限定せず、学部・専攻、個人・グループを問わず応募できます。日本の成長戦略の柱の一つである「観光立国」実現に向けた、積極的で斬新な提案を期待します。

募集期間：2013 年 10 月 1 日（火）～ 11 月 29 日（金）必着

（詳細は http://jec-jp.org/research/contest.php）

立命館大学からモンテ カセム教授、国際部スタッフが来館
～ スリランカのホテル人材育成等をテーマに意見交換 ～

学校法人立命館総長特別補佐、立命館大学政策科学部モンテカセム教授、立命館大学国際部、友常菜穂氏、髙道陽子氏が来館、スリランカにおけるホテル人材育成、ホテル学校の教育、教員育成等について幅広く意見交換を行いました。

立命館大学では、スリランカ民主社会主義共和国の政府所有のホテル学校（スリランカ観光ホテルマネジメント教育機関：Sri Lanka Institute of Tourism and Hotel Management）の教育指導、教員指導・研修等を実施しており、今回の来館はスリランカにおけるホテル人材育成、教育内容の充実、カリキュラムのあり方などについて、当財団関係者と意見交換を実施したものです。

写真中央　モンテカセム教授と石塚校長

国内外の観光機関関係者、教育機関関係者などが来館し、意見交換を行い連携、協力を深めています。

日本旅館国際女将会3月定例会　赤坂四川飯店で開催
～ 講師に「料理の鉄人」 陳建一氏 ～

3月22日、日本旅館国際女将会定例会を、千代田区の赤坂四川飯店で開催、女将及び関係者23名が参加しました。定例会後の「中華料理研究会、懇親会」では、赤坂四川飯店のオーナーシェフ、NHK「きょうの料理」、フジテレビ「料理の鉄人」などテレビおよび雑誌でも幅広く活動している、陳建一氏に講演と四川料理の実演を行っていただきました。

実演を行う陳建一氏

陳氏は「料理人はサービスマン。ファン作りが重要。ホールスタッフはお客様の些細な言葉にも常に注意をはらい、場合によっては調理場も見学してもらっている。全ての来店者を満足させることは出来ないが、一人でも多くの人 にファンになってもらうため、ホールスタッフ、調理場の料理人、全ての従業員が日々切磋琢磨している。」などと語りました。旅館業とレストラン業は共通点が多い事から、参加者は真剣にメモを取っていました。

写真前列中央：陳建一氏

トピックス

和食インストラクター養成講座 開講

日本ホテル教育センターでは、「和食検定」の認定者を対象に、和食文化の正しい知識を広めるための教育指導、和食サービスに関する実務指導者の育成に向けた、「和食インストラクター養成講座」と「和室での振舞講座」を実施いたします。

■第 1 部：和食インストラクター養成講座
2013 年 8 月 5 日（月）～ 6 日（火）
1 日目　9：30 ～ 17：00（休憩 60 分）
2 日目 10：00 ～ 18：00（休憩 60 分）

■第 2 部：和室での振舞講座
2013 年 8 月 27 日（火）10:00 ～ 15:00（休憩 60 分）
（詳細は http://www.washokukentei.jp）

◇◇◇◇ JHSたより 48号 ◇◇◇◇
編集責任者：石塚　勉
編 集 担 当：黒沢由美子
連　絡　先：03-3360-8231
kurosawa@jhs.ac.jp